

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年 4月 2日

【評価実施概要】

事業所番号	2691600015
法人名	社会福祉法人 友愛会
事業所名	すずらん
所在地	〒621-0806 京都府亀岡市余部町中条17番地 (電話) 0771-20-2840

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成22年3月4日
評価確定日	平成22年4月19日

【情報提供票より】平成 22 年 1 月 2 8 日)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	16 人	常勤 11 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 6.9 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	2 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	66,000 円	その他の経費(月額)	25,500 円	
敷 金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(250,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	650 円
	夕食	650 円	おやつ	昼食込 円
	または1日当たり 1,500 円			

(4) 利用者の概要(1 月 28 日 現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.3 歳	最低	68 歳	最高	89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	瀬尾医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

小規模多機能ホームと併設する当該ホームは、大きな民家を改築し昔ながらの住宅街の中に開設されています。理念に基づき、そのひとらしさを大切に利用者や家族、地域、職員が1つになり かかわりを多く持つことで、利用者本位の生活を送ることができるように支援しています。職員をチームに分け、其々の課題を見つけ事例検討に取り組むなど職員同士の連携を深め、やる気や学ぶ気持ちが発揮され有意義な発表会が開催されています。また、地域の方に毎週ホームを手芸教室としての開放したり、「すずらん新聞」を地域への回覧、毎月開催される自治会、民生委員主催のふれあいサロン、地域活動として介護講座開設など多くの行事に参加することで地域との繋がりを大切にされているホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価の課題であった、理念を職員が大きな布で手作りし皆が見えるようにリビングに掲げました。また、玄関に椅子を置いたりホーム名の看板を作り変えるなど出来ることから取り組んでいます。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、管理者の思いや非常勤職員から聞いたことをまとめて記入したものを常勤職員に配布し、意見を書き加えてもらい再度、管理者がまとめました。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	家族や自治会長、民生委員、市の職員、地域包括支援センター職員などが参加する運営推進会議を小規模多機能と合同で2カ月に1回、開催しています。ホームから行事や事業報告をして地域活動や避難訓練などについて話し合っています。参加者から意見やアドバイスを頂き有意義な場となっています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	来訪時や家族懇親会で介護保険についての説明や行事での写真などを見てもらいながら、話しやすい雰囲気や意見や要望を聞いています。意見や要望などがあれば職員で話し合い改善策を家族に伝えています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し回覧板が回ってきます。毎月「すずらん新聞」を組長宅に持参し、地域に回覧してもらっています。毎月、ふれあいサロンや自治会と民生委員が主催する地域活動に利用者や参加しています。また、毎週地域の方に手芸教室としてホームのスペースを提供したり、地域の方が健康について訪ねてこられるなど気軽に立ち寄ってもらえるように努めています。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に管理者が、利用者や家族、地域、職員が心のふれあいを大切にできるようにとの思いを込めて作りました。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関やリビングに額に入れたり職員の手作りで布製の理念を掲げています。毎月の会議やケア会議で話し合いの際に理念に基づいたケアが出来ているか振り返る機会を持っています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し回覧板が回ってきます。毎月「すずらん新聞」を組長に持参し地域に回覧してもらっています。毎月ふれあいサロンや自治会と民生委員が主催する地域活動に利用者と共に参加しています。また、毎週地域の方に手芸教室としてホームのスペースを提供したり、地域の方が健康について尋ねてこられるなど気軽に立ち寄ってもらえるように努めています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価票は、管理者の思いや非常勤職員から聞いた事をまとめて記入したものを常勤職員に配布し、思いや意見を書き加えてもらい再度管理者がまとめました。前回の改善点については、職員による手作りの理念を皆が見えるようにリビングに掲げるなど出来ることから職員で話し合い取り組んでいます。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族や自治会長、民生委員、市の職員、地域包括支援センター職員などが参加する運営推進会議を小規模多機能ホームと合同で2カ月に1回開催しています。ホームから行事や事業報告をして地域活動についてや避難訓練などについて話し合い、参加者からの意見やアドバイスを頂き有意義な場となっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に参加があり、何かあれば電話や訪問をして相談が出来る関係が構築されています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の請求書と一緒に「すずらん新聞」や担当職員とケアマネージャーからの手紙を添えて送付しています。金銭管理は立替え制で使うときにはキーパーソンに了解を得て毎月の請求書と共に請求しています。また、通院介助をした時の様子はその都度報告し、何かあれば電話や来訪時に伝えています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時や家族懇親会で介護保険についての説明や行事での写真などを見てもらいながら、話しやすい雰囲気で見聞きや要望を聞いています。意見などがあれば、職員で話し合い改善策を家族に伝えています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人の異動は多少ありますが開所時から勤めている職員も多く、管理者は日々の仕事がマンネリ化しないように利用者と一緒に1泊旅行などを楽しみに仕事が出来るように工夫しています。新任職員が入ってきたらベテラン職員についてコミュニケーションを取りながら馴染んでもらえるようにしています。また、年に2回人事考課があり希望や意見を聞いています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内の研修の年間計画があり実施しています。題目やチームを決め事例検討について取り組み発表することで職員のやる気や学ぶ気持ちが発揮されました。今後も希望があり継続していく予定です。また、外部研修参加後は伝達研修をして資料や報告書がいつでも見られるようにしています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に4回のグループホーム連絡会に管理者と職員が参加しています。毎回テーマがあり事例検討やグループワークなどをして、管理者と職員が別々に話し合う機会を持っています。また、交換研修も行っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前には、利用者や家族に見学に来てもらいホームの様子を見てもらっています。入居後はコミュニケーションを多く取り、家族とこまめに連絡を取り友人や親せき、兄弟などに訪問をしてもらいながら少しずつ馴染んでもらえるようにしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	若い職員が多い中で吊るし柿やおはぎの作り方など利用者の習慣や今までの経験などから多くの事を教えてもらっています。また、日々一緒に生活する中で利用者を尊重、理解して何でも話し合える関係作りに努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ホーム独自のアセスメント表や日々の会話や表情からも多くのことが把握できるようにしています。利用者や家族から多くのことを聞きながら職員で話し合い共有できるように努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族から希望や要望を聞きながら、ケア会議で話し合い一人ひとりに合わせた介護計画を作成しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1年ごとに再アセスメントを行い見直しをしています。毎月のケア会議で話し合ったり、3か月ごとに担当職員とケアマネージャーがモニタリングを行い評価しています。また、介護記録はSOAP方式を利用して利用者の言葉をそのまま記入することで、その時々を大切に見直しに繋がっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の都合で行けない通院介助や行きつけの理美容、利用者の母親の通夜から葬式までの付き添いなど利用者の希望や状況に合わせた支援をしています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を継続し、通院の度に家族から情報を得ています。また、管理者でもある看護師が日々の健康管理を行い、何かあった時の希望の緊急搬送先を聞いています。歯科や耳鼻科などの診察が必要になれば、その都度受診できるよう支援しています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時にホームとしての方針を説明し、その時の状況に応じて法人の特養や他の施設に申し込むことを理解してもらっています。現在は元気な利用者が多く共同生活を大切に過ごしていますが、今後家族と職員が介護に対しての思いが1つになれば終末期もホームで迎えられると考えています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人事考課で接遇に関する勉強会や言葉遣い、守秘義務、私語、個人情報などについて学習会を行っています。不適切な場面を見かけたら、管理者はその都度注意しています。また、個人情報の記録物は事務所のカギ付きの書庫に保管しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床から睡眠まで利用者のペースや生活リズムを大切にしています。職員からの声かけや提案しながら利用者の希望に沿った生活を送れるような支援に努めています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	業者からの献立に基づいて食材が届き、利用者はエプロンを着け下準備から下膳、食器拭きまでを一緒にしています。行事食や誕生日会には利用者の希望を聞きながらメニューを決め一緒に作っています。また、職員も同じテーブルに着き同じものを会話を楽しみながら頂いています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午後から夕方まで毎日準備しています。同姓介助を基本とし、利用者の希望で毎日や2日置き、3日置きに入られるなど希望に応じた入浴を支援しています。また、入浴拒否傾向の利用者には、職員の工夫した声かけなどで柚子風呂や入浴剤を使いながら気持ちよく入れるようにしています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	今までしてきた調理や掃除、洗濯など自然と役割になっています。毎日文章を書いたり、個人で新聞を取るなど興味のあることを楽しみとしています。また、1泊旅行にバスで出かけるなどの楽しみを持っています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には散歩や買い物、公共施設での催しやドライブ、道の駅などに出かけています。理美容や通院を兼ねて外出するなど一人ひとりの希望や要望に沿って外出が出来るように支援しています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム前は交通量も多く、安全のため鍵は施錠しています。職員は鍵をかける事の弊害を理解しており、利用者が外出したい様子を感じたら一緒に出かけています。また、運営推進会議で鍵の件で話し合ったこともあります。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回昼夜想定で避難訓練をしています。1回は消防署立ち会いの下行い、1回はホーム独自で行っています。実際に近隣でボヤ騒ぎがあり訓練の成果が出ました。運営推進会議で話し合い、地域の方にも声かけしましたが残念ながら参加がありませんでした。今後も継続して呼び掛ける予定です。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回の食事摂取量や水分摂取量は記録しています。利用者に合わせて食べる量を調節し、一口おにぎりや刻み食など利用者に合わせた食事を提供しています。また、苦手な食事には代用食を提供し、要望に出来るだけ添えるようにしています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花を飾り、廊下には本棚や手作りの人形、懐かしい家具を置き家庭的な雰囲気があります。リビングから見える日本庭園は最高の景色が望め季節を感じることができます。また、寛いでテレビを見る空間や所々に椅子やソファを置き好きな場所でゆっくりと過ごす事ができるように工夫しています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドやドレッサー、タンス、テレビなど家族と相談しながら今まで使っていたものや好みのものを持ってきてもらっています。ぬいぐるみや家族の写真を飾り、居心地のいい居室となっています。		